

「神のご支配・人の分・希望の福音」

ローマ 11:33—36

堀田修一 22・4・24

「ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。…すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえまでもありますように」ローマ 11：33，36

I 天と地の造り主なる神は、今も天と地を保持、支配しておられます。上記の通り。全世界の歴史も私たちの人生も支配しておられます。ですから、すべてを神に委ね、神を信頼して祈りましょう。神である主イエスは、未来もすべてご存知で、支配しておられるので、世の終わりのしるしの預言を正しくなさることが出来ました。「気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります（ルカ 21：11では「地震…飢饉…疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます」。コロナやロシアの侵略戦争も主の預言の中の一部でしょう）。しかし、これらは（主の再臨による新天新地、真の樂園の誕生）のすべての産みの苦しみの始まりなのです」マタイ 24：6－8。暗い事の多い世にあって、このみことばは私たちに大きな希望を与えます。今の苦しみは、主の再臨による救いの完成と新天新地、天国の樂園が産み出されるための希望に向かう産みの苦しみののです。日々暗いニュースで落ち込まず、すべての支配者の神に祈りましょう。ダニエル書。

II 神がすべてを支配されているなら、私たちがなすべき分はないのでしょうか？いいえ。
あります→

1. 「最後まで耐え忍ぶ人は救われます。御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わり（主の再臨による救いの完成、新天新地、天国の樂園、悪への正しいさばき）が来ます」マタイ 24：12，13。主を信じ、最後まで耐え忍び、神が与えられた唯一の希望である主の救いの福音を祈りと愛をもって家族、知人、友人に伝え続けましょう。有澤師ご夫妻や他の宣教師のために祈り、世界宣教に参加しましょう。※新約聖書をよくよく読みますと、この世は、人間の罪、悪の故にだんだん悪くなると記されています。IIテモテ 3：1－9やマタイ 24章の主の世の終わりの前兆のみことばもそうです。それは、神が悪くなるようにされているのではなく、人間の罪が原因、人間の悪の結果・刈り取りです。「神は悪に誘惑されることのない方」ヤコブ 1：13。「人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります」ガラテヤ 6：7。「女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、同じように男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。…その誤りに対する当然の報い（刈り取り）をその身に受けています」ローマ 1：26，27。神が造られた自然（酸素を提供する）を人間が自己中心に壊し、二酸化炭素を出し過ぎる経済至上主義に走った「つけ、刈り取り」として、今、温暖化による世界中の気候変動、異常気象（大雪、真夏の暑さ、冬の寒さ、大雨、雨不足等）による災害が増えています。私たちに、地球の温度が1度上がるだけでも異常気象が起こると気付かされています。進化論が

正しいなら、人間も自然も進化し続け良くなり平和な世界になるはずですが、しかし、進化論は真理ではないのです。真理である聖書が語られるように、私たち人間の罪、悪は増し、自然は人間の罪のゆえに「滅びの束縛」を受けているとローマ8：21に記されています。もしこの世が、神に背いたままでも、この世がだんだん良くなっているなら、人間は反省もせず、ますます神なんかいないと高ぶり、神の救いを求めることもないでしょう。この世がだんだん悪くなっているのは、神の警告であり、私たち人間が、真の救い主なる神に立ち返るための招きです。※放蕩息子への父の深い愛。ルカ15章。私たちキリスト者は、暗く落ち込む時ではありません。今こそ、世界中のキリスト者の使命の時！唯一の希望の主の救いの福音を伝えましょう。神は、私たちを希望の救いの光を伝える貴重な世の光としてこの世に遣わしておられます。神は人々が滅びるのを望んでおられません。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」ヨハネ3：16。主の救いの福音を伝え、世界の一人一人が、主を心に迎え入れるなら、神の国（神の支配）は、福音宣教によって、この地上において力強く進展しています。「わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているなら、もう神の国（神のご支配）はあなたがたのところ（心の中）に来ているのです」マタイ12：28。「あなたがたは地の塩…世の光」マタイ5：13, 14。

2. 「万物の終わりが近づきました。ですから祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい」Iペテロ4：7-9。とりなしの祈りをし、互いに愛し合いましょう。コロナ終息やロシアの指導者が、残虐な戦争を止めるように祈り続けましょう。忍耐が必要です。あきらめず神を信頼して。神は、神の時に、神の方法で正しくさばかれます。さばきは、神に委ねましょう。神の時に終息させられます。「死んだ者たちは…自分の行ないに応じてさばかれた」黙示録20：12。人のさばきは、神に任せ、主の再臨の前に自分の罪を告白し、心を整え身を慎み主の再臨を待ちましょう。

「私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと地位のあるすべての人（国々の政治家、指導者等）のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。…祈りは、…喜ばれることです。神は、すべての人々が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます」Iテモテ2：1-4。国々の指導者が、悔い改め神を恐れ神のみこころにかなう政治を行えるように祈りましょう。世界中の人々に、福音が伝えられ、人々が救われるように祈りましょう。ご聖霊の助けで「福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます」マタイ24：14。

3. 「それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。…奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。…神があがめられるためです」Iペテロ4：10, 11。神の恵みに感謝し、自分の分に応じて奉仕し合い神をあがめ礼拝する教会を建て上げましょう。
4. 運命論と聖書が語る神の支配は違うことを自覚して歩みましょう。「世の運命論」は、すべては運命により決まっており、人間のなすべき事はないという結論になります。「聖書的な神の支配」は、神は、すべてを支配しておられますが、神のみこころにかなう祈りを私たちが捧げ、福音を伝え続ける（私たちの祈る志も福音を伝える志も神が与えられる）ときに、

神が御手を動かしてくださる余地のある神の義と愛の支配です。※神の絶対的支配の奥義＝①神が、何ものにも邪魔されない主権的なご計画の支配と②神の支配を外れない範囲で神の許可される領域、私たちが真剣に祈るとき御手を動かされる領域がある。「互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力(神の御手を動かす力)があります」ヤコブ5：16。祈り：神に希望を置き、祈り続けます！

祈り：すべてを支配しておられる神をあがめます。と同時に、世界の異常気象や世界の悪い状態は、神のせいではなく、人間が蒔いた罪の刈り取りであり、神に立ち返るようにとの神の愛の警告であることに気付かせてください。神の支配は、私たちが祈る事と真の希望である主の救いの福音を伝えることと一人でも多くの方が救われることを望んでおられることが含まれている事を感謝します！